口腔ケアの取り組み（歯科衛生士活動報告）

歯科口腔外科 歯科衛生士　三上 妙奈

近年の研究により、誤嚥性肺炎や感染性心内膜炎、敗血症、糖尿病などの全身疾患に口腔細菌が関連していることが明らかとなっています。

その原因は、プラーク（歯垢）です。プラークは、齲蝕や歯周病の直接的な原因であると同時に、全身感染症を引き起こす原因菌の温床の役割を果たす可能性が高い細菌のかたまりです。このプラーク、そして口腔細菌の減少には、適切な口腔ケアが非常に重要となります。[1)]

口腔ケアは、口腔清掃を中心とする「器質的口腔ケア」と口腔機能訓練を中心とする「機能的口腔ケア」のふたつに区別されます。

当院では主に、歯科衛生士が「器質的口腔ケア」を、そしてリハビリテーション科の言語聴覚士が「機能的口腔ケア」をおこなっています。

今回は、私たち歯科衛生士が日常おこなっている「器質的口腔ケア」の活動を報告致します。

現在、当科で多く関わっている口腔ケアは、平成24年5月から開始された、周術期口腔機能管理を目的としたものです。

がんや心臓疾患、腎移植など全身麻酔下で手術をおこなう患者さんや、化学療法、放射線治療の患者さんを対象として、口腔ケアと応急的な歯科治療を主におこなっています。

当初は、外科のがん患者さんから開始しましたが、現在では九つの診療科と連携し、全身麻酔下手術後の肺炎などの合併症予防を目的とした口腔機能管理をおこなっています。

周術期口腔機能管理のなかでの口腔ケアで大切なことは、患者さん自身におこなってもらうセルフケア向上のための指導、そして、手術前に歯科衛生士がおこなう専門的口腔ケアのふたつがあります。専門的口腔ケアをおこない、患者さんの口腔内をプラークフリー（歯垢の完全除去）にすることで、その後の患者さん自身がおこなうセルフケアでのプラーク除去が容易となり、口腔内細菌数の減少、さらには、術後肺炎や口腔の有害事象リスクの軽減にもつながります。

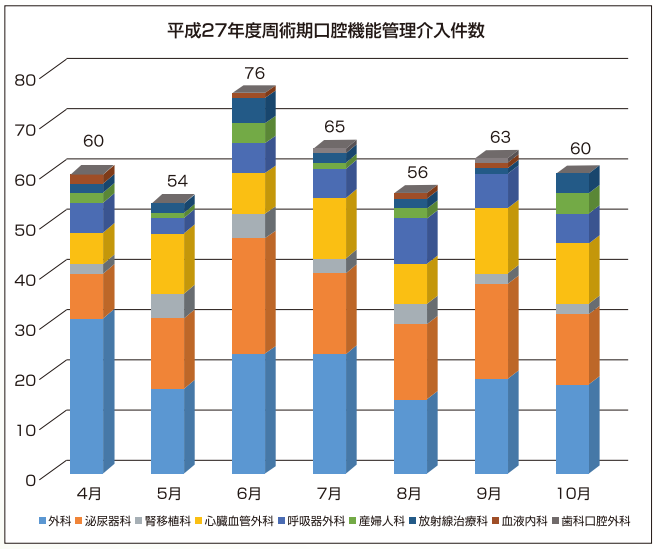
また、周術期口腔機能管理対象患者さん以外にも緩和ケア内科の患者さんならびに、各科病棟の口腔乾燥症や口腔カンジダ症などの症状で診察依頼があるセルフケアが困難な患者さんに対しては、歯科衛生士がベッドサイドで専門的口腔ケアをおこなうとともに看護師に日常の口腔ケアの内容や方法を伝達し、患者さんが口腔の健康を保つことが可能となるように、お手伝いをしています。

NSTセミナーでの口腔ケア発表

このような取り組みに加え、患者さんにおこなう口腔ケアだけではなく、看護師や他の職種のスタッフにも口腔ケアの重要性や必要性を理解してもらうために、病棟での勉強会に参加して、ベッドサイドでおこなう日常の口腔ケアの方法を伝えたり、院内セミナーで多職種のスタッフとともに入院患者さんの口腔管理についての発表もおこなっています。

以前に比べ、口腔ケアの重要性や必要性が多くの医療従事者に認識されつつありますが、今後は高齢者の増加にともないセルフケアがままならない患者さんの数も増加していくと考えられます。

このことからも、私たち歯科医療従事者は更に口腔ケアを普及させ、たくさんの医療従事者に口腔内の関心度を高めてもらい、地域の医療機関とも連携しながら、チームとして患者さんの口腔機能維持をおこなえる体制づくりを、今後進めていきたいと考えています。



参考文献
1）角　保徳　著：歯科医師歯科衛生士のための専門的な口腔ケア　超高齢社会で求められる全身と口腔への視点・知識：医歯薬出版株式会社　2012;11:12−25